

	三重大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:400 第3年次:30） 大学院工学研究科（M:216 D:16）
沿革	昭和24（1949）年 新制三重大学設置 昭和44（1969）年 工学部設置 昭和53（1978）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成7（1995）年 大学院工学研究科博士課程設置
設置目的等	<p>昭和44年、重化学工業の進展等の産業界のすう勢と三重県には工学部がなく、有為の人材の県外流出が甚だしいとの県下の世論に鑑み、学術文化の中心とし、人格の育成とあわせ、広く知識を授け、高度の技術者を養成し、産業の発展に貢献し、国民生活に寄与することを目的に、工学部が設置された。</p> <p>昭和53年、進学希望者が一貫して大学院までの教育を受けられるようにすることを目的に、工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成7年、シーズ志向の基礎研究やこれらを基礎とする応用開発などの研究機能の強化と、基礎学力と幅広い応用能力を持つ創造性豊かで、先端技術に対応できる先導的能力を持った技術者、研究者を養成することを目的に、工学研究科博士課程が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>三重大学においては、工学における専門分野の教育を通して、知的理解力・倫理的判断力・応用的活用力を備えた人材を育成するとともに、科学技術の研究を通して、自然の中での人類の共生、福祉の増進、及び社会の発展に貢献することを目指して教育研究に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 工学研究科・工学部の目的に基づき、深い専門知識と高く設定された目標を達成する能力をもつ技術者の養成を積極的に推進し、企業における先端技術開発に携わる、課題抽出力、課題解決力をもつ技術者はもとより地域社会の抱える諸課題に対応しうる技術者等の育成の役割を果たす。</p> <p>博士課程においては、基礎的研究とともに現在及び将来の多様な変革に対応できる学際的・独創的分野の開拓を目指した高度な研究</p>

を通して、幅広い基礎知識と高度の専門知識を蓄え、鋭い先見性と優れた倫理観を有する、国際的な課題の解決に貢献できる創造力豊かな研究者と地域におけるプロジェクト推進においてリーダーシップを発揮できる実践的・高度技術者を養成する。

- 初年次教育から専門教育にわたる能動型学習プログラムや、大学院における地域企業との連携による企業提案科目を含む実践教育プログラム、半数以上の学生が英語発表を経験する6年一貫国際教育プログラムなど、特色ある教育を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を目指して不断の改善・充実を図る。また、博士前期課程における国際・コースワーク教育の実績に基づいて、他研究科、海外を含む他大学との連携も視野に、学部と博士前期課程、博士前期課程と博士後期課程の一貫性を重視した教育への展開を図る。
- 発表論文数世界上位の実績を生かし、センター化した組織の下で、リチウム空気電池を始めとする次世代型電池開発、半導体表面、薄膜を機能発現の場とする極限ナノエレクトロニクス研究などの先端プロジェクト研究を展開するとともに、工学分野における研究を推進する。
- 教員一人当たりの受託研究・共同研究の受け入れの高い実績を生かし、我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。
- 県内唯一の工学部として、先端的な科学技術の地元三重県における拠点としての役割を果たすとともに、地域企業との連携による共同研究開発を通して地域社会に貢献する。
- 三重県との連携の下、「美し国おこし・三重さきもり塾」における防災・減災活動の専門知識と地域コミュニティづくりのノウハウをもつ人材の養成、「ものづくり中核人材育成事業」における研究開発型ものづくりを目指す地域企業の若手・中核人材の養成等、社会人の学び直しへの取り組みを通して、地域社会の発展に貢献しうる人材を輩出する。